

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社フジカイ新事業所 本部棟	階数	地上6階
建設地	愛知県北名古屋市沖村西部地区面整理事業10街区1~59	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条指定地区(屋根)	平均居住人員	250人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,880時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2019年5月1日
敷地面積	37,894 m ²	作成者	池田沙瑛子
建築面積	826 m ²	確認日	2019年5月9日
延床面積	4,522 m ²	確認者	池田沙瑛子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 80%

③上記+②以外の 80%

④上記+ 80%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>46.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	46.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	46.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体		
		Q 建築物の環境品質														3.1
Q1 室内環境														3.0		
1 音環境														3.0		
1.1 室内騒音レベル														3.0		
1.2 遮音														3.0		
1 開口部遮音性能														3.0		
2 界壁遮音性能														3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0		
1.3 吸音														3.0		
2 温熱環境														3.0		
2.1 室温制御														3.0		
1 室温														3.0		
2 外皮性能														3.0		
3 ゾーン別制御性														3.0		
2.2 湿度制御														3.0		
2.3 空調方式														3.0		
3 光・視環境														3.0		
3.1 昼光利用														3.0		
1 昼光率														3.0		
2 方位別開口														3.0		
3 昼光利用設備														3.0		
3.2 グレア対策														3.0		
1 昼光制御														3.0		
3.3 照度														3.0		
3.4 照明制御														3.0		
4 空気質環境														3.0		
4.1 発生源対策														3.0		
1 化学汚染物質														3.0		
4.2 換気														3.0		
1 換気量														3.0		
2 自然換気性能														3.0		
3 取り入れ外気への配慮														3.0		
4.3 運用管理														3.0		
1 CO ₂ の監視														3.0		
2 喫煙の制御														3.0		
Q2 サービス性能														3.7		
1 機能性														3.7		
1.1 機能性・使いやすさ														3.0		
1 広さ・収納性														3.0		
2 高度情報通信設備対応														3.0		
3 バリアフリー計画														3.0		
1.2 心理性・快適性														4.3		
1 広さ感・景観 (天井高)														5.0		
2 リフレッシュスペース														4.0		
3 内装計画														4.0		
1.3 維持管理														4.0		
1 維持管理に配慮した設計														5.0		
2 維持管理用機能の確保														3.0		
2 耐用性・信頼性														4.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振														5.0		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														5.0		
2 免震・制震・制振性能														5.0		
2.2 部品・部材の耐用年数														3.3		
1 躯体材料の耐用年数														3.0		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0		
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0		
2.4 信頼性														3.4		
1 空調・換気設備														3.0		
2 給排水・衛生設備														5.0		
3 電気設備														3.0		
4 機械・配管支持方法														3.0		
5 通信・情報設備														3.0		

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
3.1 空間のゆとり		②	0.3	4.2	0.31	-	-	-	3.3	
1	階高のゆとり		階高4.2m以上		5.0	0.60	-	3.0		-
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-		
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.8	
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			評価する取組み表の評価ポイントの合計値が12~17ポイント		4.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制			金属断熱サンドイッチパネルを採用		3.0	5.0	0.30	-	5.0	
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.72		3.0	3.8	0.30	-	3.8	
4 効率的運用			0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング			各設備毎に計量可能		3.0	4.0	0.50	-		
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.2	
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている。		3.0	4.0	0.40	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.3	0.63	-	-	-	3.3	
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	シャッター、ビニル系床材、ボード		3.0	5.0	0.20	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.05	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1		消火剤	-	-	-	-	-	-		
2		発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	-		
3		冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮		①	緑化面積を20%以上確保		-	3.8	0.33	-	3.8	
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25	-	-	-		
1		雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-		
2		汚水処理負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-		
3		交通負荷抑制		駐車場・駐輪場を整備		5.0	0.25	-		
4		廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1		騒音	独自	3.0	1.00	-	-	-		
2		振動	独自	-	-	-	-	-		
3		悪臭	-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1		風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-		
2		砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	-		
3		日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	-		
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10
② 資源の有効活用			3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	4.1	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:46.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社フジキカイ新事業

計画上の配慮事項	
総合	コミュニティブリッジにより2階部分で各棟と接続。 本部棟1～2階は共用空間、3～6階は執務空間。 南北面に開口を設け、良好な室内環境を形成している。
Q1 室内環境	ガラスはLowE複層ガラスを採用することで熱負荷の低減を図っている。
Q2 サービス性能	執務空間の天井高さを2.9m以上確保し、各階リフレッシュスペースを設けている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽面積を確保し良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	外壁は金属断熱サンドイッチパネルを採用している。
LR2 資源・マテリアル	躯体材料以外にリサイクル材を使用している。
LR3 敷地外環境	職員が利用する駐輪場・駐車場を十分に整備している。
その他	なし